

# 小諸いろいろ農園

2013年7月  
第3号

農園「いろいろ」で耕作している農地は、全て借りています。ですから昔風にいえば小作農家という事になります。年貢を払って借りるわけです。「年貢」などと言うと農地解放前の地主制度による封建的な農村を思い起こさせますが、今でも会話の中に「年貢」という言葉を耳にすることがあり、最初耳にした時は少し驚きました。このように田舎では都会では聞かれない昔からの言葉や習慣が残っています。



植えの始まる春先に農業用水路を清掃します。地域の住人が

総出で行うのです。これを「道普請」(みちぶしん)と言いますが、この作業を行うことによって田んぼの水が確保される訳です。「普請」とは、元々は禪宗

の用語が語源のようでお寺の建立の労役に地域の人が共同で奉仕することを意味します。「結い」と似た仕組みです。現在はU字溝になっている用水路ですが、昔は石や土を盛り上げた土手だったのでしょう。冬の間には壊れた土手(道路)を農民総出で修復したことと思われれます。ですから水路普請でなく道普請なのです。ちなみに都合でこの道普請に参加出来なかった場合、「出不足金」(でぶそくきん)数千円を徴収されます。

## 農

園「いろいろ」では二反部の田んぼと、二反五畝の畑で運営し

ています。農地の面積を表す単位に「反」(たん)・「畝」(せ)などが使われていますが、あまり馴染みのある単位ではありません。昔、大人一人が一年間で消費する米の量(一石)を生産出来る面積を一反としていたようです。今で

は一反で米四〇〇kgと2.5倍ほどに収量が上がり、逆に米の消費量が半分以下に減っている(年間約六五kg)ので約六人分でしょうか。

一反は約一〇アール(一〇〇〇m<sup>2</sup>)です。一〇〇m走の一〇コース分の面積とイメージするのが解りやすいです。

さて、農園の様子ですが今年春先の少雨で出足が遅れ気味でしたが、その後の降雨で今は順調に作物も育っています。詳しくはホームページにてご覧になれます。「農園いろいろ」で検索

### 白土馬鈴薯 (ハクトバレイショ)

小諸は隠れたジャガイモの産地でもあります。強粘土質の土壌で採れたジャガイモは滋味にあふれ、色が白く肌がきれいでホクホクと食感が良いと、主に京都の料亭など関西方面に出荷されています。今年も工房「夢楽天」さんの協力で七月下旬より皆様にお届け出来る予定です。また自由が丘の「T.S.レストラン」にも提供いたします。こちらにもどうぞ。